

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770302255		
法人名	株式会社 エコ		
事業所名	グループホームかんりん 1階		
所在地	福島県郡山市富久山町八山田字尾池南1-1		
自己評価作成日	平成26年8月18日	評価結果市町村受理日	平成27年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成26年10月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・ホームのすぐ近くに公園があり、ホームからは毎日子供達や近所の方々散歩や遊ぶ様子がみえて、明るい雰囲気ホームです。近所や町内会、小学校や中学校との交流もあり、地域との交流を心掛け、地域に根差したホームを心掛けております。</p> <p>・避難訓練では地元消防団の参加、地区協力隊として地域の連絡網も作成し、協力を得られる体制となっております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>1. 法人の内部研修や各種の外部研修会へ参加するなど、資格取得に向けての支援があり職員の資質向上に積極的に取り組んでいる。</p> <p>2. 買い物、散歩時に地域住民との交流があり、事業所行事や防災訓練等に地域住民が参加したり、地域の祭り、文化祭への出品など利用者が地域の一員として生活出来るよう支援している。</p> <p>3. 運営推進会議を定期的開催し、事業所の運営状況を報告し地域との関わりについて積極的に話し合い、災害時の消防団との協力体制を構築するなど事業推進に取り組んでいる。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員と一緒に理念を考え、作り、いつも目につくところに掲げ、実践につなげている。	理念を全職員で検討したり、その継続の是非を検討するとともに、各種会議で理念を周知共有し、実践につなげるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの公園に散歩に行く事で地域の方との交流があり、子供たちとの交流もある。	地域自治会に加入し、地域のクリーン運動に参加したり、事業所の芋煮会、避難訓練に地域住民が参加するなど地域の一員として生活できるよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生を受け入れたり、地元の小学生の訪問などを積極的に受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	会議では意見交換が多くされており、様々な意見を頂き、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は定期的開催し、利用者や職員の状況、行事、防災訓練、研修、事故報告、地域との交流や連携などを話し合いサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護サービス相談員が月に2回来所され、利用者様との交流を図り、状況の把握をしている。また、行政、介護サービス相談員、事業所との三者会議で意見を頂き、反映させている。	事業所の実状を伝え、月2回事業所訪問する介護相談員が利用者から聴取した内容や利用料未納者の対応など相談したり、関係法規の指導を受けるなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルがあり、勉強会も重ねている。毎月事故委員が担当となり、拘束にあたる事例がないか検討会議を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束排除マニュアルが策定され、研修会等で職員は拘束の弊害を理解しており、玄関の施錠を含め拘束していない。家族と利用者のリスクについて話し合い職員間で共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルがあり、勉強会を重ねている。外部の研修にも参加し、ホーム内の勉強会等で伝達講習をしている。スタッフ全員で情報を共有して、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会社内研修や外部研修に参加し、伝達講習を行っている。スタッフ間で共有し、支援ができるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書を用いて、利用者様とご家族に説明する。契約後もご家族ときちんと連絡を取り、疑問や質問などがあれば説明や話し合いをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望を来所の際に伺い、必要に応じてスタッフ同士で話し合い、改善できるようにしている。	利用者が寛げる入浴時や、家族面会時に意見、要望を把握し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの意見を常に聞き、意見を反映できるように取り組んでいる。スタッフ会議にてスタッフの意見や要望を聞いたり、疑問点に答えるようにしている。	個別面談を随時行い、職員の思いを把握したり、各種会議で意見や提案を聞く機会を設け、通院しながら、勤務が継続出来るよう改善するなど運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ボウリング大会等、レクリエーションを取り入れたり、ホーム表彰や個人賞があり、向上心を持って働ける様意欲につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社内研修や外部研修への参加を積極的に行っている。その後報告書を作成し、スタッフ間で知識を共有し高め合っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福島県グループホーム協議会に入会し、定期的に研修等に参加している。他ホームとの交換研修も実施し、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に実態調査に行き、ご本人から話を聴き、困っていること、要望等を受け止めるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談時や実態調査の時に御家族からも話を聴いて対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	身体状況や生活状況または精神的な状況及び希望を踏まえながらアセスメントを行い判断し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	喜怒哀楽を共にして、人生の先輩として色々なことを教えて頂きながら支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの行事の際はご家族にご案内し、参加して頂き、利用者様との関わりを持って頂いている。ご家族の思いも聴き、共に支えていく関係作りが構築できるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、馴染みの方々に面会に来ていただき、いつでも面会できる状況にしている。また、昔から通院していた病院や理美容院へ行く事が出来るように支援している。	買い物や外食、なじみの理髪店や知人の告別式への参列など希望に沿って外出している。また、家族との墓参りなど馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで出来る事を取り入れ、参加して頂き、孤立しないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も関係を断ち切らないようご本人やご家族からの相談を受け付けている。また、手紙や電話等で状況の確認を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から情報を収集して、ご本人の意向や希望が見出せるように支援している。	利用者の思いや意向を「暮らしの情報」として把握し、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実態調査で生活歴や趣味等の把握に努めている。また、ご家族や入居前に利用していたサービス提供機関とも情報交換を行い、ケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事や得意な事の把握に努め、スタッフ間で共有している。出来る事を行って頂けるように声掛けの工夫をして、今ある力を引き出せるように支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議で日常の変化や課題を話し合い、対策等を検討している。記録の書き方の勉強会を行っている。記録をもとにケース会議で検討できるように努めている。	モニタリングを行い利用者や家族の思いなど、より良く暮らすための課題を本人、家族、医師、看護師など必要な関係者の意見をもとに話し合い現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書をスタッフ全員で共有し、統一したケアを行っている。また、日々の気づき等を会議で話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれのニーズに応じた支援を行っている。図書館や買い物等希望に添った支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事等で、図書館等を利用したり、ボランティアの受け入れを積極的に行ったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望する医療機関をかかりつけ医として受診している。通院には主にご家族に対応して頂き、連絡ノートにより状況を把握している。また、通院の困難な利用者様は往診体制への切り替えも勧めている。	本人及び家族の希望するかかりつけ医を受診している。通院は家族が主に行っており、受診結果は病院診断・服薬記録に記載され、共有されている。また、24時間オンコール体制が取られ、利用者は適切な医療を受けている。利用者の重度化等から協力医による往診への切り替えも勧めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に医療連携の看護師が来所して、健康管理をしている。日頃の状況等を相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は医療ソーシャルワーカーや看護師、ご家族とに情報交換を行い、状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについては、事前に確認書に記入して頂いている。状態変化時には再度確認をしている。利用者様とご家族の意向を把握し、尊重できるように努めている。	契約時に重度化や終末期に向けた指針について、家族等に説明し同意を得ている。看取りを開始するにあたっては、再度家族の意思確認を行い、主治医をはじめ関係者連携のもと、看取り介護支援をしている。また、看取りについての研修会に職員を参加させている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修やホーム内勉強会で訓練している。緊急時対応マニュアルを作成し、スタッフ全員で理解に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月防災訓練を行っている。(夜間想定)の訓練も行っている。)地区協力隊緊急連絡網を作成し、避難訓練にも参加して頂いている。地元消防団の協力体制がとられている。災害伝言ダイヤルを活用しての訓練も行っている。	年間計画により消防署や消防団、並びに地域住民の協力を得ながら、防災訓練や救急救命訓練等を実施している。また、地区協力隊緊急連絡網で、地域からの協力体制も整備されている。食料や防災用品等の備蓄をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様一人ひとりを尊重し、話を聴き、言葉掛けにも配慮している。	利用者一人ひとりの、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に留意している。また、関係法令などの勉強会を通して、利用者の個人情報の取り扱いと管理が徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションをとることでご利用者様の思いや希望を受け取り支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のペースに合わせ、その日の状態をみて声かけや見守りにも工夫して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や行事の際にはおしゃれを楽しんで頂けるよう支援している。馴染みの理美容院でもご協力を頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事の準備や後片付けを出来る方には一緒にこなしている。季節に合った献立の工夫もしている。スタッフも一緒に食事をし、楽しい雰囲気を作っている。	食材の調理や盛り付け、おしぼり配りやテーブル拭き等、利用者と職員が一緒に行い、楽しく食事ができるよう工夫している。また、各種の行事食やおはぎの手作りに挑戦したり、季節感のある献立に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分、食事はチェック表に記入し、スタッフが情報を共有できるようにしている。状態に応じてトロミをつけるなどの工夫をしながら、水分を摂取して頂ける支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に行う口腔ケアは習慣になっている。支援が必要な利用者様には声掛けや見守りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせて、トイレ誘導や排泄の支援を行っている。普段の関わりの中で、サインを見逃さないようにし、さりげない声掛けを心がけている。	できるだけトイレで排泄ができるよう取り組み、定時の他、一人ひとりの排泄パターンに合わせて、さりげない声かけの中でトイレ誘導を行い、自立に向けた支援をしている。その結果、意欲や自信となり身体機能の向上につながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	負担にならない程度の運動や水分摂取に努め、牛乳等食事面でも工夫し、支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の希望に合わせた入浴を行っている。入浴剤やゆず湯等で入浴を楽しめるようにしている。また、足浴やシャワー浴の支援も行っている。	利用者の希望に沿った入浴支援を行っており、好みに合わせた入浴剤を使用したり、季節に応じたゆず湯や菖蒲湯等を取り入れて、入浴が楽しめる工夫をしている。また、毎月法人が運営する温泉保養所にも出掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の状態を見て休息を取り入れたり、一人ひとりに合った休み方で休んで頂いている。冬には和室にこたつを作り、休んで頂くこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院診断、服薬記録へ記入し、理解したうえで支援し、症状変化時には医師や薬剤師へ相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る方には食事の準備や片づけ等の役割を持って頂いている。一人ひとりに合った役割で支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族や地域の方々に協力して頂き、出来るだけ利用者様の希望に添って支援している。	ほぼ毎日、事業所周辺の散歩をしたり、地域の行事や近隣の公園等に出掛けられるよう支援している。また、毎月、温泉地に出掛けたり、家族の協力を得て自宅訪問や、外食、墓参りやドライブ等の支援をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームでお金の管理をしているが、ご本人やご家族の希望に合わせて対応している。また、外出時等に支払いを行って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人やご家族の希望に配慮して支援している。電話等も希望があった際には対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や植物、利用者様の好みの物を置いている。季節の飾りつけ等で季節感を取り入れる工夫もしている。	玄関、廊下、リビング、台所等、清掃と整理整頓がされており、生花や観葉植物が置かれ、清潔感のある共用空間となっている。また、広々としたリビングには、ソファやイスがゆったりと配置されており、利用者が思い思いにくつろげる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様、一人一人に合った空間で一日を過ごして頂いている。仲の良い利用者同士で過ごせる支援も行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	ご利用者様のなじみの物、使用していた物等を置き、ご本人の好みに合った環境作りに努めている。ソファや机、仏壇等ご本人の大切にしている物を持ってきて頂いている。	ゆったりとしたスペースの中で、利用者一人ひとりがテレビやラジオ、机や椅子、仏壇等、思い出の品々を持ち込んで、自分らしい生活感のある部屋となっている。また、清掃が行き届いており、整理整頓された清潔感のある住環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の持っている力に応じ、布団やベット、トイレの手すりの位置にも工夫している。		